※令和４年度以降入学生用

学校番号	107

令和８年度　音楽科

教科	音楽	科目	音楽理論	単位数	１単位	年次	３年次
使用教科書	「Ｊｏｙ　ｏｆ　Ｍｕｓｉｃ」　（教育芸術社）						
副教材等	「楽典　理論と実習」　（音楽之友社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

音楽理論を学ぶことは、音楽を演奏する上でとても重要なことです。基礎的な記譜のルールや拍子・音階・調・和音など、様々な音楽に関する理論を理解することに加えてソルフェージュ・音楽史などの学習を進め、日々取り組んでいる専攻実技に対し技術面・表現力ともに更に磨きをかけてほしいと考えています。頭の中だけ、紙の上だけではなく、実践的に理論を音楽演奏の中に取り入れる力をつけてほしいと思いますので、そのためのパフォーマンス課題も設定します。
考査は年２回（前期中間・後期中間）に実施します。

2　学習の到達目標

音楽理論の学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を次のとおり育成することをめざす。
【知識及び技能】音楽に関する基礎的な理論について理解するとともに、理解したことを楽譜によって表す技能を身に付けるようにする。
【思考力・判断力・表現力等】音楽理論を表現や鑑賞の学習に活用する思考力、判断力、表現力等を育成する。
【学びに向かう力、人間性等】音楽理論を表現や鑑賞に生かそうとする態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・音楽に関する基礎的な理論について理解している。【知識】 ・音楽に関する基礎的な理論について理解したことを楽譜によって表す技能を身に付けようとしている。【技能】	音楽に関する基礎的な理論を知覚し、その理論を表現や鑑賞の学習に活用しようとしている。	音楽に関する基礎的な理論を理解することで音楽文化を尊重し、主体的、創造的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	和音	各種変化和音 楽曲における和音の役割	a:【知】和音に関する知識を持ち理解している。 【技】和音に関する知識を表現に生かすことができている。 b: 和音に関する知識や技能を総合的に働かせ、音楽の表現内容を解釈したり音楽の文化的価値などについて考えたりし、表現意図をもっている。 c: 学習内容に関心を持ち、演奏に生かそうとしている。	定期考査	定期考査 パフォーマンス課題	振り返りシート パフォーマンス課題
	和声	和音の連結(発展)	a:【知】和声に関する知識を持ち理解している。 【技】和声に関する知識を表現に生かすことができている。 b: 和声に関する知識や技能を総合的に働かせ、音楽の表現内容を解釈したり音楽の文化的価値などについて考えたりし、表現意図をもっている。 c: 学習内容に関心を持ち、演奏に生かそうとしている。	定期考査	定期考査 パフォーマンス課題	振り返りシート パフォーマンス課題
後期	楽式・楽曲分析	様々な楽曲の形式 様々な楽曲の分析	a:【知】楽式と楽曲分析に関する知識を持ち理解している。 【技】楽式と楽曲分析に関する知識を表現に生かすことができている。 b: 楽式と楽曲分析に関する知識や技能を総合的に働かせ、音楽の表現内容を解釈したり音楽の文化的価値などについて考えたりし、表現意図をもっている。 c: 学習内容に関心を持ち、演奏に生かそうとしている。	定期考査	定期考査 パフォーマンス課題	振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度